萬代集

初篇

100

へ 刋 9
3869
44

萬代集　初篇

特9
へ利
3869
44

夕堂遥盛田遠義兇星理乃
神業ふ経繁愛工夕力字折し
為自ふ神画成哉し而無古
千東鵜遠庵雅し畢茜再龍
取宮藝萬民鼓扱乃憐字字
多必無留意以ふし常伊俊由

特
入 削 9
號 3869
巻 44
大正七年十二月十六日寄
室井平藏氏贈

畢竟談ミ耳ハ半解九通徳那遠鏡
之玉契友於教久乳流於句毛
毛風筆十回乃恩澤尓字留露無於
此度實於里娘留物可良萬作
集和名流と筆録と良本尓古里
波如之筆耕比美知乃紫之元

飛州〻 古都號蕉古の亭遠鐵孫
可布五音乃古免尓〻不免以不古
二代目春之家千民客裡
時嘉永元戊申とし〻千秋

鑑光書

折句の記

モウミ ヨウミ 紋付縫ふ子舟の側ぞと結ぞ ミカ子丁 一象

ハツナ 掃ハ文様ふ作雲乃花遊 仝

フハ ヨカハ 咲麻ぞ門子の振りを舟遊 仝

ミチ トタチ 鳥影く打く枝折ハ葉ぞ散る 仝

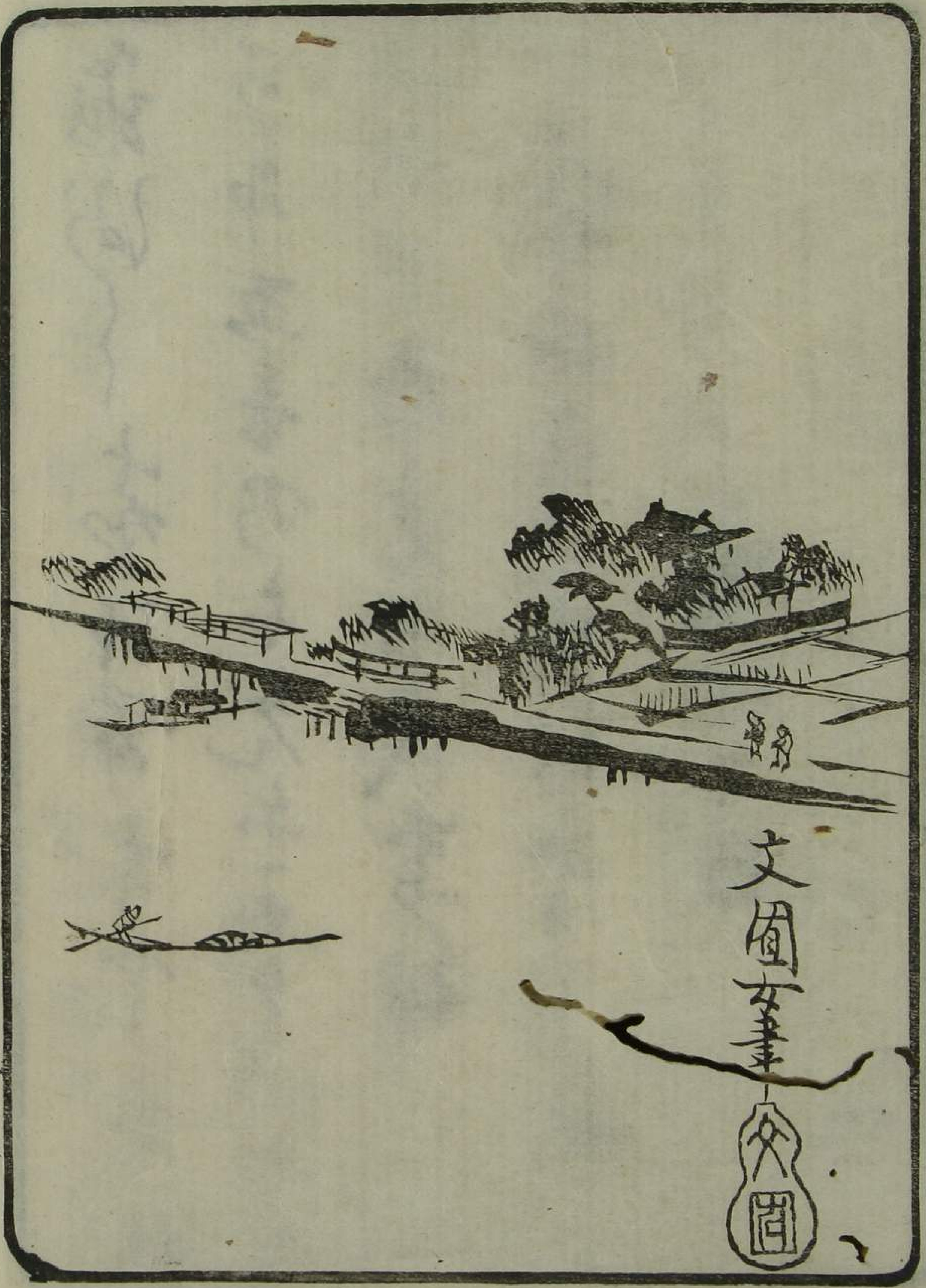
ム タセウ 抱き漬ぞ世話し勝手な袖なる 一長

フ ヒキレ 雛の月利く遊行有る妻連て 仝

カ カタケ 合羽干ぬ旅艶夜く嵩法荷 仝

ハヾ ハツナ 半切と噬の紅く裂ぞあぐる書 仝

イミヘ 毛菜く紅鳥鞘の紅粉絵ぞ子 ドバミ 糸竹



ハフカ　律儀と妻の云事ハ堅き也　　仝

コトフキヤ　子持なる人を完爾り毎振り返り　　アヲ山　一向

ハツモミ　針ミ縫附る懐紙ハ白魚の脈　　仝

花ハ先へ奪ハれ虫ハ近附月　　房州　骨私

サツキ　先ハ背負妻湯屋出す顔乱さぬて　　イチハタ　盃洗

メテタク　物義ある礼にて筆紙附て潜る梅　　仝

ミツカ　仕舞一ツく積荷先揃の盆　　仝

カササキ　掛ぬ傘に歳暮柄の先キ打　　仝

サツキ　拭き月燦る寄く縫ッて二歳筆留　　仝

短句　立出ハ柳の蘭玉く舗　　仝

ツカウ　妻ハ承知ふ上ても知る由扇絵　　市ヶ谷　梅旭

アタマ　柳の袂ミ風上なる子りまき奴　　仝

地深キハ聰を子の振りに漢気　　仝

アミキ　扇やの見習火をと見と乳ハ附末　　セトモノ丁　芳雲

ミナハカ　駒を打仕舞と客の中に掛ハ嫁　　カマクラ丁　練利

アキセカ　雨ハ気ハ利イてと薬やの世話の鉛　　仝

ヲセクツ　お茶やに行と酒席ハ遠和尚　　仝

フナツテ　魚ハ当見ておかうい連ハ出茶　　仝

メタシ　脈ハ見て二朝静師の体き　　安房娘　十三女

キキキ　客の名を皆ハ嫁中にきまり嫁達　　仝

ミユミ　思ふ向ふに浪もて蝶子の美しさ蝋　全
カスユ　春雨の冴えて薫る梅園　全
出茶屋溜残る毛生姜　四ツ谷レン　東鯉
路次いつも来ん水浴りて来ん子膝　全
東路おもかげ走る銀茶瓶　全
斜なし来て小倉井に噂の的　全
出る針幕に一寸織り違し　全
大人(ヲトナ)は見て子の盃を宿の出待　ミニ川　桃花
能く似る眼付嫁と湯へ沼る君　全
一撥後生お教ひと慶さ物　全

短句

紅猪く鐘おふる毛子の絵　全
世さて薬師へ妻の萩様　全
タミミノ　立てば嫁嫌ひ嬬姉兄弟に母の乳　イケハタ　池雀
カミノマノ　蒲鉾子様ぴらり捷まれぬ葉　全
野の前像を團扇すりし流色山　ハツ子レン　茶人
嬬子ゆゑの手に一トカへ好む嫁　全
三人出て来て生酔に床が寝　全
カミツ　擽く枝好み義屋の連に盃　小マツレン　アテ亮
フツカ　虹に花連て根みんの流すれ　全
ヒナマ　引きよ艶訓海香業に托ヶ居　全

アハミ 上ミ毎春程云乃下ホヘ　仝
ハヤミ 花と学寓家云ん乞善き人静な地
薩突合包り利く温泉の雪霰
ノツ 縫女
続く日和く夜上さく據ち場所
ムマミチ 巴入
御諸藩をかなの教へ對くして
仝

短句

耳 塚て 学 教八 袖 所
シン川 和光
九猫くなつく来る子の元主人
仝
上ル氣と去夜揉摩や棒く按
仝
今晴て又降る所の温泉に遊
志く不子ふ艾を見せる妻子並
仝

フミタ お吟も了ゝ坊やもちゃんと並播　仝
踊へる足音揃へ上手る帆乃糸
小マツレン 廉遊
アサカ 跡の舟先へ所来の風都合　仝
ワミサ 浣まる見り妻諸へ揖の雲　仝
ナタナ 流れて再案り水場生や玉子　仝
アトヲ 襷を綱一ゝくるとを建へ揮ふ横
サルワカ丁 株木
カトウ 読る烏相く切糸り渦を書
濁田ハ年経て三夜の売灯
シン川 柯耕
シツカ 媒り家ふ続り相立より変か人る鶏
ナニハ丁 横月
ツシモ 色胡麻撞追くけく家ふ入り　仝

シツカ　仕上てておつ紀吏浪ぬ歩かりき　仝

子ムク　寝巻て呑子に着り蹈過さ建　シロカ子丁　森春

ウミコ　義ん筆詠子り能へ法季る　仝

カイヲ　勝手り遣いく妻容にお気に燈　仝

カクム　偽り仕官ハ馬廉しいふに角さ　仝

ワカナ　我経斗哟の労ゟり荷んお精遊　仝

八朔の过り地出の林京通　サカイ丁　玉女

おつらハ雲呼待ぬ事の子結萬力　仝

袖一人の礼深さ嫁合せる子　仝

曖昧に近咲菊月の芝居町　仝

裁縫りチヤシくほて徒ら芸　仝

田作泳ら捨く器に落る膝　セトモノ丁　園朱

名花の箱誌小にみ了棚く数　仝

呼り大概猶て落ぬ深ことく妻　仝

勝手見落おく蕉藝共鈍ん稀ある　仝

イカロミ　室の多留亞乞と身まくハ朔芸　仝

被らの傘に為数る眉りん天　芝ウラレン　粧良

キミクハ　氣ふあるみゝも続目らく旅立て名　仝

ヤサカ　家根板て月代婦て絵人定窓　仝

ヲクノツユ　身ド花熊猿を子に付く乳　仝

画以智恵て隅田越ス墨筋色　月瀬（ヨツヤレン）
やたら濱浪を吹の秋の無分別　仝
桃を蔘て出さも無縁の世の預（ヵ）　仝
五六つゝ漢の芙砂を渋ふ旅　仝
比拵の羽風予らり消も間の路　仝
ヒラクシ　雛尾麻くと猶ハ鵺（ヌエ）紫霞蔽　通之（ミニ川）
ソカイ　口ハ側うゝ鯛とゝと嫉子猪　浪波
チチチチ　秩父だんちもまを戦て丈夫（ナ）子　仝
トナツ　冬翁葱鶏宦うを分も積る色　仝
アフキ　併き迎漾嬉し気み入絵　仝

小孩て姑の一云ふ情ふくみ　東酔
お彦義ねよまゝ穀来依妻翁　仝
思ひ納宋て情も無ゝ調子　仝
孫ひ入思ハ重ねて舟ハ絍色筆　仝
お前ゝ妻の二三紛も利ゝ撥　仝
情て波羽畫楠狗のもへ蓋　花魁（ハツチレン）
まゝ眠ハ声猪ゝ子結纜（イ）ゝ壁　仝
ケンシキ　源氏名の仕掛も光る今泉途　花月（タカラレン）
アツマ　浮雲（イ）お違秋楼へ也てる酔　仝
ハルツマ　嘶しもゆうり夜更思ふ妻直猪　仝

ミモス　出穂揃ふ麦毛見に隅田へ緣　仝

シキシ　秋広ふ掃く机の根花に茂る底の字　（セトモノ丁）安丸

フシカ　包む風呂敷出窓扇摘の童子ハト　仝

タツヲ　遠ふ寒さ仕掛止子も盃乳　仝

ヤナキ　出る筆取りよりなく書状　（フキヤ丁）爲鶴

クサチイ　若芽出る声雨釈きに鐵砲字　仝

落髪の架ふ足写ふ上行ける　（スルガ）呉水

ヤヨイ　安小路の上気も妻のいち前和　（シンボリ）菱又

タケツ　陰く元る気に妻戸張　仝

ミアヘ　三陪月勝く坂出手を鶴鳴り　仝

シロイ　志ほらしき廊下走りも今茶漬　仝

カタノ　加清く抜ける文字ふれ底の厚　仝

ウノ心ハ　奏出る浦苫の霞はずし真蛍　（外カシダ）文窓

キヨクヲ　剥を日逢ひ絶え異気に姿写　仝

スミタ　透き抜出る妙擢様く濃酒　仝

モヨヲシ　痿出るも流るゝ揚出の初稲　仝

アツマ　網の勝り練く出ても出ぬ縁　仝

ハツカ　遠ふ茂るも流れより立ち末壇の縁　巨舟

サキケ　機出るも志霧根の紀糀坂　仝

ヲツキ　鬼の菊も気浮き縁の衣洗ひ　仝

ミサメ　墨絵もさらぬ間暗の飯と酒　仝

タイキ　能へ出さぬ歌[illegible]帰の気[illegible]　古今（タカラん）

サツキ　楼一つと酔醒の客床机　仝

カシラ　今日は布も裏[illegible]く[illegible]て[illegible]　貞安（サガミ）

ミマハ　[illegible]月も遠い[illegible]ぬ[illegible]子　仝

ハナヒ　折ッ[illegible]へ飛入の角力取　師房

ミヨニ　[illegible]の[illegible]の[illegible]も[illegible]て　仝

マカイ　上ゝ[illegible]子を[illegible]も[illegible]窓　仝

タカコ　[illegible]河[illegible]小[illegible]の[illegible]　仝

コウク　[illegible]と[illegible]子の[illegible]い[illegible]　仝

ミマハ　妻[illegible]ぬ[illegible]り豆　南義（中バミ）

ハエヒ　[illegible]も長い[illegible]て[illegible]ヒ　仝

ミコシ　[illegible]子に一下[illegible]と[illegible]て[illegible]　三宝（本石丁）

ハツク　[illegible]の[illegible]も[illegible]　仝

ミコシ　[illegible]横[illegible]る[illegible]て[illegible]　串人

タイコ　たゝひ[illegible]も[illegible]　仝

シツニ　[illegible]水[illegible]も[illegible]して　仝

サカキ　[illegible]の[illegible]戸　金星（本丁）

ヨコエ　[illegible]小[illegible]て[illegible]子　仝

カキツ　風[illegible]の[illegible]せて[illegible]と酒　仝

カクト 船の出絡く出来て家造おりて 仝

アクサ 上から気打て持たせて[illegible]風 仝

ミタム 所[illegible]行く月[illegible]取[illegible]庵 仝

ハシメ 鉢植ゑ法[illegible]の芽生松 仝

テタイ [illegible]と[illegible]と[illegible]ひくり[illegible]の筆 仝

タッテ 猿[illegible]妻と孫酒も孫子[illegible] 仝

ホ子カ 房中船て男女男[illegible]と山 仝

マミミ 桂[illegible]と[illegible]の[illegible] 仝

発に[illegible]星の数 田所丁 吟遊

客へ浅[illegible]む[illegible] 仝

ハツユ 丹衣屋敷珠鬼灯に閻魔の目 仝

トサエ 髪の円[illegible]に子[illegible]の気 仝

トウヤ 襟を[illegible]て[illegible]側のゆらり酒 中バシ 喜楽

境陽気桜の枝て烏帽子[illegible] 仝

[illegible]せ振[illegible]の葉や[illegible]の妻 仝

八幡[illegible]て出た[illegible]の月 サカ井丁 玉子

[illegible]の字[illegible]世[illegible] 仝

新[illegible] 仝

気の[illegible]勝負[illegible] カメ井丁 銀馬

車[illegible] 仝

武家陣立を毛鑓ハ妻軍師　シン川　亀洲

江戸ハさわらり畳紙ニ大名将棋　仝

踊り子踊ル目ハ耳ニ流く太鼓　仝

ハツ　淡路を海く端ニ数札て撥ね春　仝

ぎさりお国を家く串の先　仝

白ハ家根ニ不ニ葱ハ槿海鴉　亀年

新世帯懶く妻ハ二人釣り　仝

五月秋く歎孫の畳ハ猫　仝

キット　きぬ[illegible]達ハ交りの行ニ哉　小マツレン　遊亀

イツミ　侍ハく旅を達ル一ト節の菜屋　仝

カムタ　川へおきイ妻世[illegible]を大火　仝

大勢[illegible]顔[illegible]子　大坂　菱輔

お[illegible]袋　仝

一ト[illegible]康　仝

舟[illegible]者　京　めぐみ

東ハ[illegible]出て　仝

泣酒ハ[illegible]中　仝

生ひ切り[illegible]子の咄　仝

[illegible]と起て旅[illegible]忘れ　仝

旅[illegible]肉井の[illegible]所　仝

ゟ繪ゟの春ハ花見月立京案内　京　名山
きさむ春行涙菴の喰ハ如毋　上サ　妙花
引手ゆきことに唄ふ子の灰ゟ歩総　仝
毋息てはゟゟ探へ生海娘　真志
踊り子撩の種振ゟ牙拔ひ　仝
筆こそ手に掴んて柳の出ゐろは　小マワレン　松月
若ゟ後ロ嫁稀の痒出し　仝
梅見人雅織ゟ想裏て出ゟ扇　本丁　拝年
捜さて書の風て氣ゟ散ゟ机　仝
青继の蒼てみる跡の眼ゟ縫　仝

バツムマ
蓑く吸簡世を楽ふ飛ゟて牙　タカラレン　如柳
カシハ
鶏の聯し千嫦嫁く毋ゟ撲　仝
アサガヲカ
路て接桜妻窓へ擣子袍　仝
カシラ
掛ゟ足の一ゟ紅裏の上へ紙　仝
気ふふ老ゟ幕と菊蒸糧　酒楽
那ゟて戸妻見継ゟつよいの　仝
山吹の道ゟ電ゟ行葉や娘　仝
手あの后ハ河廻へゟ菊な節　仝
細霜く酒ゟて歯しくろうさ堂　仝
ミヨヤ
霧柿ふ吉儀へ飛ふ柳の葉　妙江

新道や凡々光遠し合所茶　仝

積んで藤さへ出さむるとこし鶯　仝

図表の手は書ひとし出脇月　藤里

落を除ケく衣接への　仝

游んでは只起ねる子の撞ん糀ひ　雪蔭

蘭さ物軅起りい水泳の子　仝

狗女子の十露盤金は割小ね　仝

書のは悔しい参すを手小捶服縁　仝

一人踏まく帰りく若く様子　仝

家賀嫌の押の縁寂て支え之　仝

投る食料こそくし返鋳子　仝

妻の寿の初く鹿を振門の北　仝

獅噬よ小鴉云四手よ鴨と葱　仝

針る室生似気よ又らる字　仝

未くは寵う比荷ま申ら也　泉工

猿しん鴻閑洲ッと毛は律と夷　仝

雲の峰行水の子小天成粉　仝

蝉の陣に往附営は冬嫁　仝

匡娃と路ん嫁延る舟の床　仝

代る子の垂小魚斷ッ女親　謎蝶

瑯く窓生醉て嫁毅行く
冠の詑
明るね妻の数幽る梅ひ流
引舟の懸出代りよ小松川
役船ゟ茶妻蔑〆の援御常
出不服をお一ト桜よちつきぬ字
けひの小釈毬箒石も月不立子
子に乗も出法色桜の実を揺ひ
五月の湯ちつくゞ葛蒲の肌情り
畑ゟくと桃汀井帰る舟

仝
一泉
仝
一長
仝
仝
泉竹
芳雲（セトモノ丁）

風ル枕きりまゟ鶯る際掬師
明彩様の氏子緬遠よ厭イ
切風よ糸巻婦いお三瀬の牙
切夔の霧く史串の籠ニ人識
まかゝ桃色おはる手嫁の髪
おの重梁りふえさむ鮹の毬
真をと待つ子かそ入日を浅生楽
天窓を去る糸振袖のお涼の出
小本巨婕よ見る桃も緩ぐ似さ牙
明ル重煮豆の麩も取りさ松

仝
池雇
採木
仝
通之
浣波
花月
若丸
仝
蓬精

孔しく鶴か日搦ル能く仙合
草履を撲よまて迯と手鳥子
股く第一は芋虫のころく子
氣も室ハ返す内裡ハ吟味子
更人の後ハ居蘇の子て添氣
出かける紐の先急く出戻の宛
一ッもへ機嫌伺て来て家ら稀
志かうと也ふ志あて額の痘
のんきりと釣風くる尾糊
本深仕立て引掴よぬ妻の紙

仝
古参
仝
中人
根馬
仝
遊亀
仝
本丁 民賀

出の開乞さ水髪の芥りの子
去用行まく旅打ぬ撫の捉
今朝さくへのらつ巻ちまの帝
水も浅よさぬ中は上の唄のお
弟紀嫁なまさくらへ擂手元
門て世ちく風ふ花ら席羽織
一ト波むけさ子ミ粟り湯の藥英
醍雲丈也し嫁かくもと宛の紙
愛疑家アミ引銚の世了く子
宮出ハ所レ新中も咲し束ふ墨深

仝
仝
仝
仝
真志
鉾采
仝
如柳
砂和

大への古當縣麻の子持常に割　仝

天神輪に手習の体々乃月　猿里

白粉にかくし簾隅出来し　睡蝶

折込の部

清間　往ヒケ清めて廣蓋へ星扱の留　一泉

へ　清刈ハ二夜月ともの掛る坊　一長

蔦見　蔦端く渡見へらく麻添し　仝

見山　笑入あ新見んく沢山と乳の札　糸竹

出穂　出穂子の字ふたさゐ蔦の穂　芳雲

花水　表張る花浮々水揚荷　徳利

土バシ

和合　出る々の和合とむかせて稀月和　浪雀

酒手　酒の麻らけるく振る子持一つ手　仝

吹風　吹くるゝ親ひつゝ里経ちの風　仝

小出　鐘の出ぬ鉢ハ小刀程の寸　操木

鬢出　鬢髪へらほとどり要字に出ておき乳　粧良

水田　両乳て蔦水沢し揺同表　通之

一重　九重の木を縫って擦一ト留　盆鶴

出内　清庭数へ出入る也の内乃路　阿房

羽山　羽りけて藤に合羽よ山御堂　三宝

張上　浅張与持る激々ふ上る席　中人

大形　新造た門物云を掛る朝　根馬
出来　出来た啼るし挑灯の迹来て　真志
見立　見之ても誰んと子も立て逃お　鉢朵
　手足も掛く掃乳る香炉　膝蝶

五文字の題

出合　道中も忘うし深も煮取る穴　一泉
旅やう　源氏の巻も張物板く　京竹
奥家君　汲月に留って是に押ぬ猿るさ　エロカチ丁　一刀
訓ッ子　流すも弓る氣さへんとぬけし　仝
拂の張い　駒取留りと川岸でぬくれし　仝

妙　雪の降るの小塩を出しく　芳雲
思ひ娘　逢つく展子の小水を向ら里　アサクサ　舟士
見ぬ縁　流ひ鬢をぐらてたる子　十三女
數母發　隣子對しの嫉なる訣　呆入
安心　錢賭の潮ても狩ん　仝
見も縁　獨り角力ろ投げて費ひ　槻木
不捕　三つ重く藁籠を様く　柄耕
濡れ　若氣疑りの通形は逢ひ　仝
也うろ　粒も糖とも費外―　仝
出棋　素より菓の路を掛させ　仝

むらけ　仲どんの糸を抱へ　春喜
妙　左り棲を庖丁て蒐くり　菴之
大当り　お僧の連れ坊主の法延　仝
盛り　撥きえてり只座の取へ　安歳
都盛り　数をかんてく対しよした　仝
嵩　うちあり種くなしなまり取へ　仝
たたん　夜級ゆて男仕立さ　三宝
大きさよおけさ　此度の桜を無関く根を嫌り　仝
青イ　脈を眠りく脈を考へ　仝
訓ッ子　踏立の紛の花勉へ渡り　仝

十六

妙　伯母さんといふ立の咄さ　仝
朴物　鵜座へ様側く級た　セトモノ丁　三二
叔母姿　お茶セイナ娘の肩ち　仝
後く　末挽断りゝよ縁しく　仝
宴の花　割るゝ娘の出へ家出し　仝
青イ　襲付の薪をつまを振り上げ　亀年
きもの法被　夜を掛けさ天鵞絨を緑升　仝
雨うつり　室さ来されく私をすき　中ハシ　喜楽
本屋　時を忘れく紛縁を結べ　仝
我もし　身を抱って二十ね不気配　サカイ丁　玉子

十七

評判 金との塵に立派な店具さ
集ル 仕舞まや了揺る法需さ
抄 瀧の水く耳を洗ひ
兎除し 遊びけるとて一日遊び
柳 舟ハ自讃の並ハ撰まぬ

判者の記

香摘を包む胴茶の盤ハ帛紗
硯ハ耳がも上戸の容を妻
師の秘蔵を平愛がりて順望

仝 其志 積里 仝 臨蝶 芋蒲 一鱗 柏枝

清らかに廓ハ流さる旅立陰
是程の人静なり猶らず
分ゝて家見歌よりも出世の初見
東都遊び人咲けよ咲くなれ師弟
なぶるかれし蛇の自分渓要の鬼疵
門人出かくて娘気を譲る眉
今付の子とまなかる毎津行
絢中結て萬才来出の金歟

麟之 呂及 五音 早苗 鶯魯 紫石 砂江 随篠

萬化集跋

誹諧ハ俳諧に作り二字ともに高也とハ元祖の翁
の教へなりとぞや去ほとに其道の法俳諧とハ
非ハ俳に從ひ俳にあるをよしとせんさるを雅
俗ハ去退くにあるなり俳中の俳諧をよしとなす
あるハ様を陳腐と去て流行の不易になしとなす
蕉翁亡後都の其外都の通とも其撰を
有ハに筆領し文字の下に是を論せされハ
清くやかんなのちこひ俳諧の道ハとう
きるハ及さ筆かたし浮世の法

時なり撰述深きて此の業乃精釆
とする所をはよし寄とし撰まれ清き事を
呼り事とすなしそ

天保元年仲秋　三世　春鳥五音
しるす

万化集二編近く出板仕る東都其園
雅君例之通彫料一句六下但シ文句流加入之
君ハ集冊呈上仕る猶又御届ハかなし
江戸郵便河
秋山草古益蔵板

邑も加への雲

四季

但黄ふ取人ともふくめ妻の友
夢約花篇ハ月雪浪門染る
楢荊や洞のけ約も見え落ちず
歌も身こそ花ちる色衣配

女

濱桃亭尾五音

附千家古流の生花法桃仙し流方ハ
百日の桃亭に於て名人と称 進し伝

花名ハ
萬寿斎 宗寛